

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第593号 平成25年8月13日

公平と不公平

札幌市教育委員会は、2015年度に札幌市内初の公立中高一貫校（中等学校）を開校する予定としていますが、7月23日に開催された教育委員会において入学者の選考方法を決めたところ、父母や対策コースを設置している学習塾からは「本人の資質や努力と関係なく不公平」と不満の声が上がっているそうです（7月24日付北海道新聞）。

札幌市教育委員会によると、募集人員は1学年160人、通学区域は札幌市内全域で、市外からは入学できません。

また、入学者の選考方法については、1次検査では小学5、6年時の学習記録等について在籍校がまとめた調書、志望理由などの説明書も加味した上で、募集人員の3倍以内を通過させる。2次検査では個人面接を行い、適性検査の結果と共に総合的に評価して入学候補者を選ぶ。その上で、男女が共に80人となる様「公開抽選」を行い決定するというものです（7月24日付北海道新聞）。

この「抽選」という方式は、道内で最初中等学校である登別の「明日中等学校」においても、導入されていますが、全国的には少数派とされています。

さて、この抽選という方式に対し、北海道新聞に、小学5年の長男が「1期生」を目指す白石区内の30代の母親の「選考に向け準備している子どもにとっては最後の最後に抽選で決まるのはやりきれないだろう」という言葉が紹介されていますが、それでは、抽選でなければ公平だといいい切れるのでしょうか。

1次、2次は作文や面接等によって絞り込まれるという事ですが、作文や面接による評価は、評価者の主観が入りますから評価は必ずしも客観的ではなく、人によって評価が変わる可能性が有ります。つまり、作文や面接による評価は、評価者が1人の場合は、その人の主観で、評価者が複数人の場合には最大公約数的に評価が行われますので、評価する人が違えば違う結果になる可能性は否定できません。

一方、試験当日のテストだけで順位を決め合否を判定するというのは、透明性が有り、客観的ではありますが、これとしても、例えば、経済力のある家庭では進学塾に通わせ、準備が出来るけれど、困窮家庭では勉強できる環境が十分でない、これを単純に競争させるのは、金持ち優遇で不公平だという声が出る事も十分考えられます。

私が高校を受験した時は、試験当日のテストの結果が全てでした。ですから、試験当日に向けて体調管理には十分気を付ける様指導されたものですが、実際には、普段の成績は非常に良いのに、当日体調を崩し試験に失敗したというケースが少なくありませんでした。

この為登場したのが、内申書というもので、当日のテストの結果だけではなく中学3年間の授業態度や成績を評価し、それも高校入試の合否に反映させようという事になりました。しかし、その内申書自体必ずしも客観的ではありませんから、この制度も完全に公平とはいえません。

非常に皮肉ないい方になりますが、誰にでも平等に選ばれるチャンスがあるという意味では、「抽選」は誠に公平な仕組みなのではないでしょうか。

北大学力増進会の小林泰之・中学受験部マネジャーは「抽選」について「努力が報われる公平な制度といえるのか」と述べています(7月24日付北海道新聞)が、「努力が報われる公平な制度」というものは一体どの様なものなのでしょう。

「旨くいかないのは全て本人の努力が足りないから」といってしまえば簡単ですが、子どもの置かれている家庭や学校はじめ教育環境が大きく違う中で、結果を本人の努力だけに求めるのは酷だと思います。

選抜試験において、不公平感を少なくする努力は当然必要だと思いますが、完全に公平な仕組み等というものが本当にあるのだろうかというのが、率直な私の感想です。人生を振り返れば、努力が報われたというより、一生懸命努力したけれども旨くいかなかったという事の方が多かったように思います。その失敗や、旨くいかなかった事を乗り越えて行く力もまた子ども達には必要だし、身に付けて欲しいと思っています。

札幌市教育委員会が抽選という方式を導入しようとしているのは、「大学受験エリート校」化を否定し「受験競争の低年齢化を防ぐため」としています。これは、「公立中等学校等においては入学者選抜に当たって学力検査を行わないものとする」という文部科学省の方針を踏まえたものと思いますが、成績優秀な子を集め、強力な進学校にするというのは、公立の中等学校が目指す方向ではない筈です。もし仮に、新設の中等学校を進学校にして行くという様な事になれば、広域な市内においてそうした進学校を1校しか設置しない事への新たな不公平感が生じかねません。

以上みて来た様に、入学選抜は公正に行われなければなりません。しかし、公平・不公平の問題は決して簡単ではありません。札幌市教育委員会では、選考方法について「今後数年間の実施状況を踏まえて検証する」としていますが、中等学校の設置目的を十分踏まえながらしっかりと検証し、検討していただく様期待しています。(塾頭：吉田 洋一)